

2014.08.20

No.2

関東支部

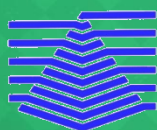
e-支部報

夏季号



目次

1.御挨拶	P2
2.新技術・得意技術紹介	P3-7
3. News Lounge	P8
4.ご紹介【ジオメトリストの会】	P9
5.ITRODUCE A BOOK（本の紹介）	P10
6.お知らせ	P11
7.応用測量技術研究発表会	P12
8.プレ・イノベーション大会報告	P13
9.業務報告会報告	P14-20
10.編集後記	P21



公益社団法人

日本測量協会



関東支部長御挨拶

関東支部長 小野 邦彦

関東支部業務報告会を7月14日に測量年金会館で行いました。

私こと小野が支部長として1年が過ぎたわけですが、皆様のお蔭とCPD付与という環境も影響して正会員が約300名、特別会員が11社増えたことは喜ばしい事です。

こうした方々へより有益な情報の提供と会員各社の方々へより質の高い「技術教育」等を今後も計画していきたいと考えています。この「業務報告会」についても色々なご意見もあります。

また、今回は村井会長より3つの提案がありました。

- ①Young surveyor forumなどを通じて若い人へのサービス
- ②女性のさらなる活用
- ③65歳以上の経験豊かな方の再雇用への道

これからの測量・空間情報業界にとってまさにイノベーション的課題だと思います。

これらについて本部とも協力しあって、関東支部がプロモートしていきたいと思っています。

なお、業務報告の詳細についてはこのe-支部報(P14-P20)に詳細を掲載していますのでご覧になってください。



芝浦工業大学 中川研究室
准教授 中川 雅史

ポイントベースドレンダリングに基づいた点群の空間補間処理技術

3D可視化や3D記録、3Dモデリング、施工支援において、点群の活用が多くみられます。これらをさらに発展させる過程において、点群処理の高速化とともに、点群処理の完全自動化が求められています。点群処理の高速化と完全自動化を同時に実現するアプローチのひとつとして、点群を多次元パノラマ画像群に変換し、点群に対して画像処理を適用する手法を提案しています。

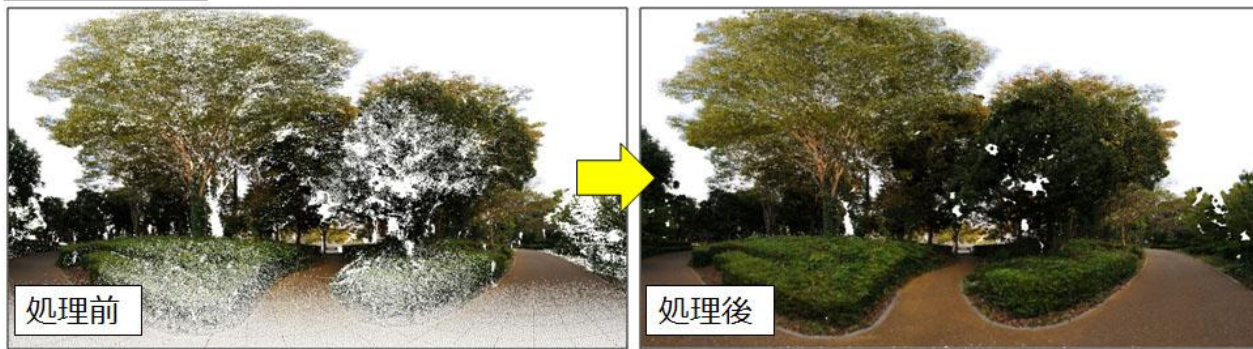
この技術は、ステレオカメラやレーザースキャナ、モバイルマッピングシステム（屋内外）、航空レーザースキャナで得られた点群に適用できています。これによって、点群可視化時の画質改善やDSMの高解像度化、3Dモデリングの自動化を実現しています。

さらに、この技術を基盤として、景観変化の定量評価手法やマーカーレス動体の運動解析、デジカメを用いた屋内測位アプリケーションなども提案しています。

芝浦工業大学 工学部土木工学科 中川研究室

URL: <http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/~mnaka/index.html>

処理事例 1



処理事例 2



図 ポイントベースドレンダリングに基づいた点群の空間補間処理の事例

東京農工大学

女性未来育成機構 地域生態システム学科・農業環境工学専攻兼務

山下 恵

「全天カメラを用いた空の状態の自動観測」

刻々と変動する雲は、地上から観察すると様々な空の状態を形成しています。空の状態は、局地的な天気の変化を表すと同時に、日射環境にも大きく影響を与えています。このような空の状態を、全天カメラを使って自動観測する手法を開発し、また、植物が利用する光エネルギー量を推定することに成功しましたので、紹介させていただきます。

全天カメラは、市販の魚眼レンズとデジタルカメラで構成されます。全天撮影は、露光条件を一定に行いました。これにより、画像処理において雲と青空と太陽の領域を自動識別することが可能になりました。また、太陽が出ているか雲に隠れているか、全天画像に占める雲の割合（雲量）、撮影時の全天空の明るさを定量化して、空の状態を詳細に分類しました。

さらに、空の状態毎の光エネルギー量を詳しく調べ、どのような空の状態時にどれくらいの光エネルギー量が地上に入射するかを推定することができました。

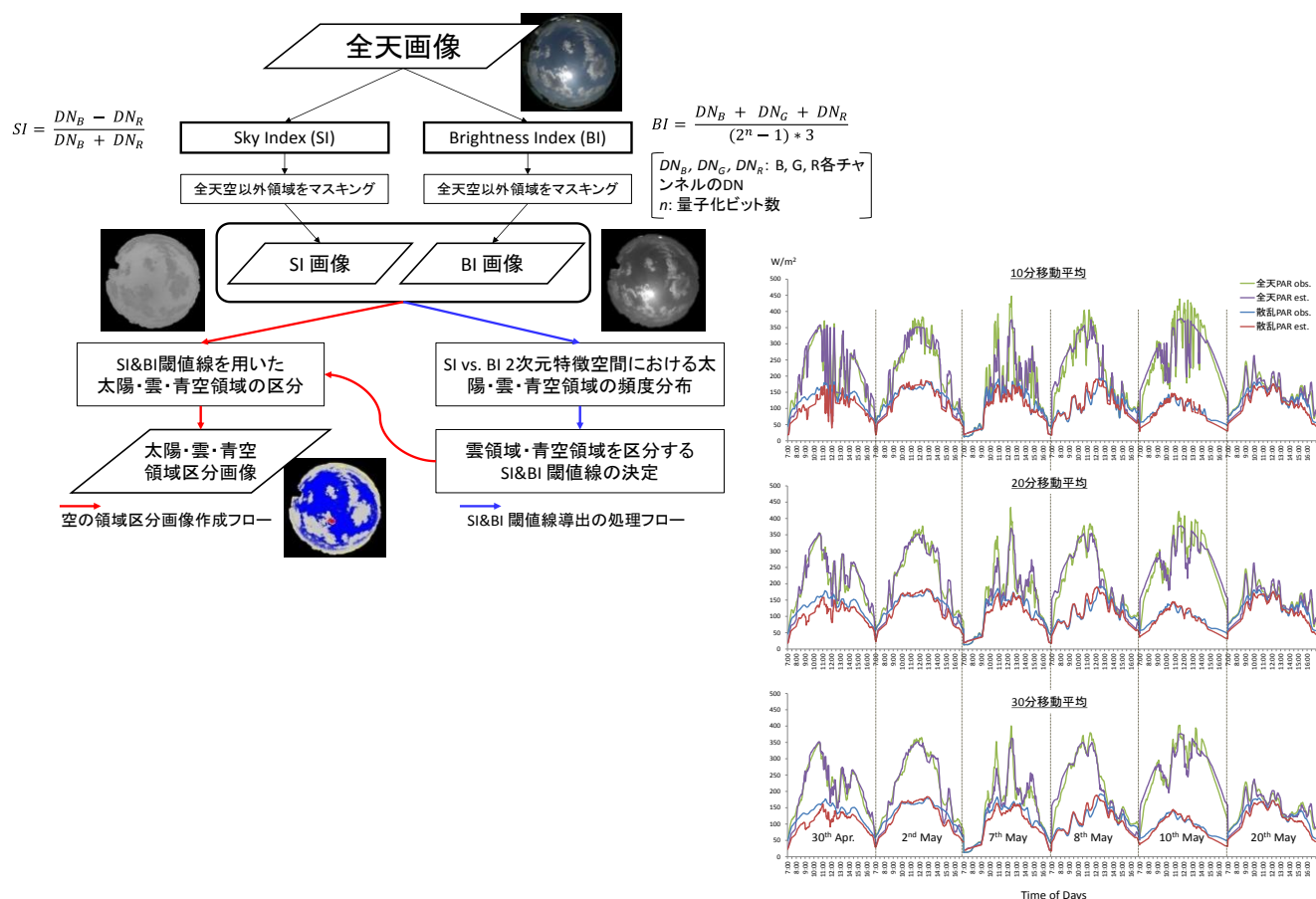
今後は、本観測手法を空間展開し、急激な空の状態変化のモニタリングや日射環境の面的推定に繋げられるよう取り組んでいく予定です。

山下恵, 吉村充則.

全天カメラを用いた空の状態自動観測手法による光合成有効放射量の推定

月刊「測量」, Vol. 62, No. 9, pp. 24-27, 2012.

http://www.jsokuryou.jp/PDF/201209/tech_repo.pdf



日本大学文理学部 地球システム科学科
助教授 村瀬 雅之

精密水準測量による台湾南東部での大規模断層クリープ現象の解明

台湾東部に位置しほぼ南北方向に150kmにわたって延びる台東縦谷断層では、断層北部ではM6クラスの地震が起こることが知られているが、南部では地表で地震を起こすことなく断層がゆっくりずれ動くクリープ現象が報告されている（図1）。断層の北部と南部で地震の発生能力が大きく異なる理由は何なのか大変興味深い。本研究では2008年から地震発生域からクリープすべり域への遷移領域と考えられる断層中部で、断層近傍に約100m毎に水準点を設置し1等水準測量用の機材を用いて上下変動を高精度かつ高空間分解能で取得することで断層クリープ現象の解明を試みた（図2）。その成果の一つとして、断層クリープ現象が安定しておこる境界が玉里鎮付近に存在し、玉里の15km北部（赤科山）では時間変化をする不安定なクリープすべりが起きていることが明らかとなった。

詳細は、村瀬・他（2014）

（http://www.chs.nihon-u.ac.jp/institute/nature/kiyou/2014/pdf/2_12.pdf）や拙ホームページ（<http://www.geo.chs.nihon-u.ac.jp/murase/>）を参考にされたい。

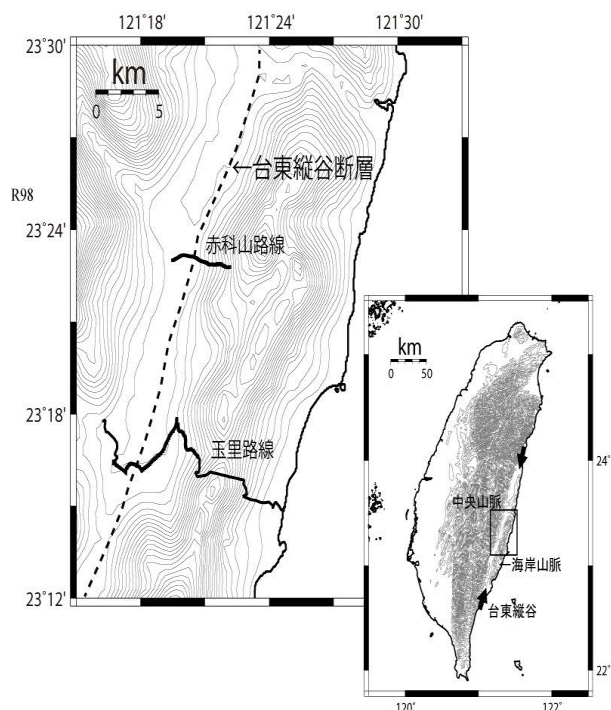


図1 台東縦谷断層（点線）と水準路線（実線）。右下の台湾島東部の四角の領域を拡大したもの。



図2. 台湾での精密水準測量の様子。電子レベルを操作しているのは筆者（村瀬）。中央研究院地球科学研究所および国立台湾大学の技官に協力いただき実施している。

スマートフォン防災アプリ

URL: http://www.naigai-map.co.jp/enterprise/system/achieve_mobile01.html

防災海老名市

アプリケーション

おこな 機能 1

現在地検索と避難所までのルート表示

スマートフォンやタブレットの GPS 機能を利用して、現在地を取得します。避難所予定施設や病院などのアイコンをタップすると施設の情報を表示します。また、案内ボタンで現在地から施設までのルートを目線で表示できます。

おこな 機能 2

オフラインで地図を開覧検索

データ一式をダウンロードすると、オフラインでも地図の閲覧検索ができます。災害発生時など、通信環境が悪化し、ネットに繋がらない場合でも利用することができます。

おこな 機能 3

地区検索・周辺検索から地図へジャンプ

任意の地区名から周辺の地図へジャンプできます。また、現在地から任意の範囲にある避難施設を検索し、ヒットした施設を地図上へ強調表示します。施設一覧からも地図へジャンプできます。

おこな 機能 4

浸水想定区域の選択表示

浸水想定区域など任意の情報を選択し、地図上へ表示することができます。

防災ガイド・帰宅支援ミニマップを収録

平時から心得ておきたい防災対策や避難時の注意など、防災に関する情報を掲載したガイドや、徒歩で帰宅するための帰宅支援ミニマップを収録しています。

おこな 機能 5

緊急伝言ダイヤル

◆製品情報 アプリケーション名: 海老名市防災マップ
 価格: 無料、言語: 日本語(英語対応) 対応OS: Android 2.2 以上、iOS 5.0 以上 (iPhone/iPad/touch 対応) (iPhone/iPad 専用アプリ)

◆バージョン・情報ダウンロード
 最新バージョン: 2013/1/3
 安定版: 2013/4/5
 バージョンアップ: 2014/4/8

© Android is Google Inc. の登録商標です。Android マップは Google Inc. の登録商標です。© Apple is Apple Inc. の登録商標です。iPhone/iPad は Apple Inc. の登録商標です。© 2014 海老名市。海老名市防災マップは海老名市防災マップの登録商標です。

アプリの作成に際してご相談やお見限りなど、お気軽にお問い合わせください。
 mail: gis@nagai-map.co.jp tel: 03-3291-0338 2014.6.1

国土交通省 国土院 地理院発行 海老名市防災マップ
 内外地図株式会社

昭和株式会社

代表取締役社長 本島哲也

次代を見据えたまちづくりの実現に向けて

弊社は1923年に創業し、1946年に「昭和測量工業株式会社」を設立致しました。その後、高度経済期の中で各時代の要請にお応えしながら、「まちづくり」に関わる様々な社会基盤形成のご支援をさせて頂き、1988年の「昭和株式会社」への社名変更を経て、昨年度創立90周年を迎えることができました。

我が国は今、人口減少や超高齢社会、安全安心まちづくりへの社会的要請、経済低迷等を背景に、国土強靱化や事前復興、エリアマネジメントなど、まちづくりを取り巻く環境は大きな変革期にあります。

また、弊社は2011年3月に発生した東日本大震災後、被災地の復興支援に携わって参りましたが、復興の過程では測量技術から基盤整備事業、そしてその後のまちづくりと、一体的・総合的なノウハウと技術が求められ、コンサルタントの役割の重要性とその深さを改めて認識しているところです。

測量技術を弊社の主力事業としていた時代から事業範囲や技術は日々進化して参りましたが、私たちが持つノウハウや技術をコミュニティツールとしながら、真に必要な施策を地域へご提案していくことで「一過性ではない次代を見据えたまちづくり」の実現をご支援して参ります。

昭和株式会社HP : <http://www.sho-wa.co.jp/>



東日本大震災後の被災地での現場測量の様子。社会基盤の復興や生活再建に向けたスタートの段階。



河川空間の景観整備に当たり、河川測量～計画～合意形成～設計までをご支援。



東京都内下町の密集地改善に向け、地元住民の方々とワークショップやまちあるきをご支援。



区画整理事業の事業管理から地域のまちづくりや交流センターの企画～設計までをコーディネート。

建設関連業の経営分析（平成24年度）

国土交通省では、前年度に決算を行った建設関連企業（建設コンサルタント、測量業、地質調査業）を対象に、経営状況の分析に必要な指標提供を目的として「建設関連業の経営分析」を行っており、5月12日に平成24年度の結果をまとめた。

それによると、先ず経常利益率は、建設コンサルタントが2.8%（前年度-1.0%、以降同様）、地質調査業が3.8%（-1.0%）と前年のマイナスからプラスに転じたが、測量業は0.0%（-5.2%）と大幅改善は見られるが低調を脱していない。一方、建設業全体では0.06%（-0.92%）であり、建設関連業全体としては比較的顕著な改善がみられている。

また、当期利益率では建設コンサルタントが1.2%（-1.6%）、地質調査業が2.3%（-1.8%）と黒字に転じているが、測量業は-0.9%（-5.9%）と大幅改善したものの依然赤字を脱していない。

一方、職員一人あたりの総売上高は、建設コンサルタント12,148千円（11,411千円）、地質調査業14,662千円（13,163千円）に対し、測量業は7,286千円（6,792千円）と改善はみられるが他2業種との差が開く状況にある。

出典：<http://www.mlit.go.jp/common/001039279.pdf>

日刊建設工業新聞2014年5月13日記事

「測量の日」関連の各種行事開催

6月3日の「測量の日」にちなみ、全国で関連行事が開催された。本支部が関係する関東地方では、先ず6月1日に茨城県つくば市の国土地理院本院において、体験イベント「～遊んで学んで地図と測量の世界～」や功労者感謝状の贈呈式が開催された。

また、6月6日には東京都千代田区の日経ホールにおいて、第43回国土地理院報告会が開催された。「地球を知る一次の震災に備えるために～」というテーマを掲げ、東北大学大学院松澤暢教授による「今後の地殻変動モニタリングの重要性ー東日本大震災を踏まえてー」と題した特別講演他、GEONETを生かした長期およびリアルタイムな地殻変動モニタリングの有用性が提起された。会場では各種地理院地図の3Dプリンタによる模型が多数展示され、地図の新たな利用可能性が示された。

出典：<http://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPYYOU/main43.html>

日刊建設工業新聞2014年5月28日記事

「外国人にわかりやすい地図表現検討会」について

国土地理院は、観光立国実現等に資するため、学識経験者や関係行政機関等からなる標記検討会を設置し、6月24日に第1回検討会を実施した。本検討会では、外国人に分かりやすい地図を作成するための標準作成の検討を進め、平成26年度中に成果を取りまとめる予定となっている。具体的な検討内容として、地名の多言語化による表記方法や、外国人が直感的に理解しやすい地図記号等が予定されている。

2020年の東京オリンピックを見据え、訪日される外国人への地理空間情報を活用したサービス提供は、測量業界としても重要なテーマとなっている。また、政府が進める観光立国実現の上でも、こうしたサービスの充実は有用である。とくに本支部が関係する東京近郊には多数の外国人が訪れると思われ、中長期も見据えながら事業展開を図る必要がある。

本検討会は、平成26年6月17日に観光立国推進閣僚会議（主宰：内閣総理大臣）で決定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」にも位置付けられているとのことである。上記事業展開を考える上でも、今後の本検討会の展開に注目したい。

出典：<http://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/kihonjohochousa41015.html>

（記：赤松 幸生）

「ジオメトリストの会」のご紹介

平成26年4月11日、公益社団法人日本測量協会が実施する「地理空間情報専門技術者」の有資格者による「ジオメトリストの会（地理空間情報専門技術者の会）」の第一回総会が開催されました。

本会は、地理空間情報技術に関する高度な専門知識とその利活用に関する経験と見識を有する専門家集団です。

技術者相互の情報共有、専門技術力向上に向けた継続教育支援等、個人と分野別の専門技術力を集積させて、企業横断形の技術者交流による総合技術力向上の役割を果たすことを目的としています。

活動内容は、技術発表会、講演会の開催、出版などの事業を行い、メールマガジンの発行、スペシャリストの会との連携と情報共有等、「地理空間情報専門技術者」の社会的認知の向上に向けた活動を行います。

有資格者の皆様のご入会をお待ち申し上げます。

（会の名称Geometlist Clubは、測量技術Geometryと専門家Specialistを合わせた造語です）

URL : <http://www.jsurvey.jp/gm.htm>

会長 鈴木 寛

入会について

入会資格：地理空間情報専門技術者の資格保有者
会計年度：26年4月1日から27年3月31日まで
年会費：2,000円
入会方法：日本測量協会ホームページにて
申込書掲載 公 募 日：平成26年4月1日

◆平成26年度の活動予定

関東エリアを中心とした関東支部を開始し、平成27年度には全国に各支部を発足させるよう活動します。

◆地理空間情報専門技術者数

約4,300名（平成26年4月1日現在）



INTRODUCE A BOOK



関東支部報 No.2
夏季号

～本のご紹介～

地形のヒミツが見えてくる 体感！東京凸凹地図

編・著者 東京地図研究社



大都市「東京」の載る関東平野はどこまでも広く、地図で見ると“たいら”に見える。しかし地下鉄に乗っていると急に高架の上を走っていたり、歩いていても「急坂」で息が切れたり、意外に東京は谷が入り組み凸凹しているのだ。

この本は、そんな東京の地形を陰影段彩図という手法や、DEMデータを駆使して凸凹を「実感」させてくれる。全体は7章で構成され、各章の見開き扉にはイコノス衛星画像とDEMデータと組み合わせ、地形の凹凸を宇宙空間から俯瞰して見せてくれるのは「圧巻」である。

現地取材の「写真」と地形断面やコミカルなイラストなど全てカラーで美しい。地形の話や土地にまつわる歴史など平易に解説されているので中学生でも理解できるでしょう。

この本を携えて東京散歩をされてはいかがでしょうか。お奨めです。（記：田中邦一）

(株)技術評論社 発行
A4版 143ページ
定価 本体1880円＋税
ISBN 978-4-7741-6423-6 C0025

(株)技術評論社
<http://gihyo.jp/site/profile>
東京地図研究社
<http://www.t-map.co.jp/>

目次

- | | |
|------------|--------------|
| 1章 凸凹体感 | 5章 崖と丘陵 |
| 2章 水と先人の知恵 | 6章 びっくり地形 |
| 3章 山地と台地 | 7章 東京から少し離れて |
| 4章 東京の真ん中 | |

お知らせ

平成26年度関東支部行事等年間予定

関東支部報 No.2
夏季号

名 称	予定時期	場所	計画人数	備 考
第25回測量経営者研修会 CPDポイント 3ポイント	9月4日 (1日間)	栃木	35名	栃木県測量設計業協会と 共催
地理空間情報技術セミナー —会員は無料— CPDポイント 3ポイント	9月17日 (1日間)	茨城	40名	会員サービスの一環 として実施
GNSSによる基準点測量講習会 CPDポイント 6ポイント	9月19日 10月17日 (各1日間)	東京 群馬	40名 30名	作業規程の準則により 解説
ネットワーク型RTK法講習会 CPDポイント 6ポイント	11月上旬 (1日間)	東京	30名	測量技術者の技術向上を 図る
いばらき児童生徒地図作品展 —入場無料—	11月5日～30日	茨城	—	いばらき児童生徒 地図研究会主催

◆G空間EXPO2014 Geospatial EXPO 2014 Japan

日時

平成26年11月13日(木)、14日(金)、15日(土)
10:00～17:00(予定)

URL: <http://www.g-expo.jp/>

場所

日本科学未来館
(東京都江東区青梅2-3-6)



関連のイベント年間スケジュールは下記からご覧いただけます。
(イベントスケジュールはページ下部にあります)

<http://www.jsurvey.jp/sok.htm>



応用測量技術研究発表会が開催されました

当協会は毎年「応用測量技術研究発表会」を開催している。今年は、去る6月30日に新宿区山吹町にある「測量年金会館」で開催された。25回目に当たる今年は、17件の応募の中から論文11件、報告2件の計13件が選出された。選考された内訳は、大学関連5、官公庁1、民間企業7であった。聴講者も定員100名を超える盛況さであった。

投稿論文の中から毎回「論文奨励賞」が選ばれるが、今年は「MMS画像データを利用した道路標識の自動認識手法の開発」を発表したパスコの崔 載永さん、「水稻群落上方からのレーザスキャナ計測による生育モニタリングの検討」を研究した長岡技術科学大学の高橋一義さんの2編が選ばれた。

下表は、発表された論文・報告をToolとContentsで整理したものである。Toolとしては“レーザスキャン”関連が5件と多く、それに次ぐ“地図”では地震防災から見た土地利用評価、旧地形図と地震による宅地被害、都市計画基図の更新周期などユニークな研究が目にとまった。
(記:田中邦一)

Tool Contents	レーザ スキャン	デジタル カメラ	MMS	地図	Others	計
環境・評価	1				2	3
モニタリング・災害	1			1		2
位置決定・精度		1	1	1		3
データ抽出	2		1			3
データ補正	1					1
Others				1		1
計	5	1	2	3	2	13

プログラムは下記のURLでご覧いただけます。

<http://www.jsurvey.jp/k-kantou260630.pdf>

論文集は、当協会にて購入いただけます。

申込は、 [TEL:03-5684-3354](tel:03-5684-3354) FAX:03-5684-3364

価格：2,500円（税込） 送料400円



「測量・地理空間情報プレ・イノベーション大会」 が開催されました

平成26年7月14日(月)10:00～17:00、測量年金会館(新宿区山吹町11-1)において、公益社団法人日本測量協会主催、スぺーシャリストの会（SPの会）およびジオメトリストの会（GMの会）共催で「測量・地理空間情報プレ・イノベーション大会」が開催された。過去には測量関連4団体共催で測量機器等の展示とシンポジウムを主体とする「測量技術大会」が開催されたが、現在は政府主導の産官学連携による「G空間EXPO」に統合され広く国民に発信する形が整った。一方、日本測量協会は9,000名を超す会員を擁しICTを始めとする様々なイノベーション（技術革新）、あるいは測量・地理空間情報に関連した技術革新・新たな価値を生み出す事業展開・人材育成の場等が求められている。こうした背景の基に「測量・地理空間情報イノベーション大会」が企画された。今年はその前段階ということで「プレ・イノベーション大会」として開催したが、120名を超す聴衆は正に満を持して開催されたものと言えよう。（記：瀬戸島 政博）

プログラムの詳細は次のURLを参照ください。

<http://www.jsurvey.jp/innovation.htm>

なお、来年は本格的に「測量・地理空間情報イノベーション大会」として日本測量協会の定時総会(平成27年6月25日(木))の前々日と前日に当たる6月23日(火)～24日(水)の2日間に渡って開催する予定である。



業務報告会 報告

関東支部報 No.2
夏季号

平成26年7月14日（月）、午前10時30分より「測量年金会館 3階中会議室」（東京都新宿区）において、会員の方々が出席し、平成26年度関東支部業務報告会が開催されました。

以下に業務報告会で報告された主な内容をご報告いたします。

平成25年度事業報告

○ 事業の概要

1. 管理者への養成と資質向上を図るために、第14回管理職研修会（2日間）を開催した。（5月13日～14日）
2. 業務報告会（旧支部総会）を開催し、終了後に恒例の講演会を開催した。（5月23日）
3. 「測量の日」記念行事として、東京都・「測量の日」東京地区実行委員会主催の「くらしと測量・地図展」（3日間）を開催した。（6月5日～7日）
4. 測量技術者を対象とした第14回電子成果の作り方講習会（2日間）を開催した。（6月13日～14日）
5. 現場で役立つ新技術の習得と技術向上のために、第3回現場応用新技術講習会（1日間）を開催した。（7月9日）
6. 群馬県測量設計業協会と共催で、第24回測量経営者研修会（1日間）を開催した。（9月5日）
7. 会員サービスおよび技術向上のために、地理空間情報技術セミナー（1日間）を開催した。（9月18日）
8. 地方の測量技術者の技術向上のために、GNSSによる基準点測量技術講習会（2ヶ所）を開催した。（山梨地区10月1日、埼玉地区10月11日）
9. 新技術の習得と技術向上のために、公共測量「作業規程の準則」に基づくネットワーク型RTK法講習会（1日間）を開催した。（11月11日）
10. 茨城県内の小・中学校の生徒を対象に、「第14回いばらき児童生徒地図作品展」を開催した。（国土地理院 11月6日～24日、茨城県立図書館 11月26日～12月8日）

○ 会員の状況（関東支部都県別会員状況）

平成26年3月末現在

都県別	正会員(名)		準会員(名)		特別会員(社)		合 計	
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
茨城県	264	284	0	1	30	30	294	315
栃木県	106	110	2	0	25	26	133	136
群馬県	175	177	0	0	17	17	192	194
埼玉県	347	487	6	3	44	48	397	538
千葉県	285	287	2	1	31	32	318	320
東京都	1,042	1,140	26	27	149	152	1,217	1,319
神奈川県	419	423	1	1	48	48	468	472
山梨県	84	96	0	0	10	11	94	107
長野県	295	332	0	0	29	30	324	362
合 計	3,017	3,336	37	33	383	394	3,437	3,763
増 減	319		△4		11		326	

○ 組織

平成25年度は、次のような組織で各種の事業を行った。

役員会

支部長 1名
副支部長 2名
幹事長 1名
幹事 17名

部会

総務・広報部会 10名
教育部会 9名
社会部会 14名

○ 各種講習会

名称・開催日	開催場所	計画人数	参加人数
第14回管理職研修会 平成25年5月13日～14日	測量会館 別館2階研修室	20名	20名
第14回電子成果の作り方講習会 平成25年6月13日～14日	測量年金会館 2階大会議室	25名	29名
第3回現場応用新技術講習会 平成25年7月9日	測量年金会館 2階大会議室	40名	53名
第24回測量経営者研修会 平成25年9月5日	前橋商工会議所 アイビー (群馬県測量設計業協会共催)	35名	50名
地理空間情報技術セミナー —会員無料— 平成25年9月18日	(一社)横浜港湾福利厚生 協会 万国橋会議センター	40名	56名
GNSSによる基準点測量技術講習会 ＜山梨地区＞ 平成25年10月1日 ＜埼玉地区＞ 平成25年10月11日	山梨県立青少年センター 2階視聴覚室 埼玉建産連研修センター 101会議室	25名 35名	25名 44名
公共測量「作業規程の準則」に基づく ネットワーク型RTK法講習会 平成25年11月11日	測量会館 別館2階研修室	30名	33名

業務報告会 報告

関東支部報 No.2
夏季号

○ 会員集会等

講演会

名 称	開 催 日	場 所	参加人員
業務報告会講演会 講演者:東京大学大学院 准教授 布施 孝志氏 テーマ:地理空間情報技術による人物の動態把握	平成25年5月23日	東京ドームホテル	41名

○ 役員会議等

(1) 業務報告会(旧支部総会)

開 催 日	場 所	出席者数	報 告 事 項 等
平成25年5月23日	東京ドームホテル	27名	1.平成24年度事業報告 2.平成24年度収支報告 3.平成25年度事業計画 4.平成25年度収支予算 5.役員改選

(2) 役員会

開 催 日	場 所	出席者数	報 告 事 項 等
平成25年4月26日	測量会館 別館 2階研修室	20名	1.平成24年度事業報告 2.平成24年度収支報告 3.平成25年度事業計画 4.平成25年度収支予算 5.その他
平成25年11月28日	測量会館3階会議室	14名	1.平成25年度中間事業報告 2.平成25年度中間収支報告 3.平成26年度行事等年間計画 4.その他

(3) 監査

開 催 日	場 所	出席者数	報 告 事 項 等
平成25年4月16日	測量会館3階会議室	監事2名	1.平成24年度事業報告 2.平成24年度収支報告 3.その他支部運営について

● 部会会議等

(1) 部会長会議

開催日	場所	出席者数	内容
平成25年7月19日	測量会館3階会議室	4名	1.部会委員の選出について 2.今後の支部活動について 3.その他

(2) 総務・広報部会

開催日	場所	出席者数	内容
平成25年4月10日	測量会館3階会議室	8名	1.支部報廃止に伴う広報の検討 2.ウェブサイトへの掲載内容について
平成25年12月9日	測量会館3階会議室	8名	1.支部の活動報告について 2.ウェブサイトへの掲載内容について
平成26年1月27日 (小委員会)	測量会館3階会議室	3名	1.ウェブ版「e-支部報No.1」の掲載内容について 2.その他
平成26年3月20日 (小委員会)	測量会館3階会議室	4名	1.ウェブ版「e-支部報No.1」の掲載内容の確認等 2.その他

(3) 教育部会

開催日	場所	出席者数	内容
平成25年10月8日	測量会館3階会議室	7名	1.平成25年度講習会等の報告 2.平成26年度講習会等の年間予定 3.その他

(3) 社会部会

開催日	場所	出席者数	内容
平成25年6月12日	測量会館3階会議室	11名	1.第24回測量経営者研修会の開催について 2.その他
平成26年2月5日	測量会館3階会議室	14名	1.第25回測量経営者研修会の開催について 2.その他

○ 関係団体との共同事業

(1) 東京都・「測量の日」東京地区実行委員会

(事務局：国土交通省国土地理院関東地方測量部)

名称・開催日・場所	内 容	入場者数
「測量の日」記念 「くらしと測量・地図」展 平成25年6月5日～7日（3日間） 新宿駅西口広場イベントコーナー	1.地図っておもしろい 2.伊能図と江戸切絵図 3.東京都・液化化予測図の展示 4.登記・測量無料相談コーナー 5.地図・測量関連書籍の販売 6.距離あてゲーム 7.東京時層地図のデモ 8.その他	約7,000名 （入場無料）

(2) いばらき児童生徒地図研究会

(事務局：国土交通省国土地理院関東地方測量部)

名称・開催日	開催場所	備 考
第14回いばらき児童生徒地図作品展 ① 平成25年11月6日～24日 （但し月曜日休館） 優秀作品の展示 ① 平成25年11月26日～12月8日 （但し月曜・金曜日休館） 入賞作品の展示	 国土地理院(本院) 地図と測量の科学館 (茨城県つくば市) 茨城県立図書館 (茨城県水戸市)	 —入場無料— 91作品の応募

○ 平成26年度事業計画（要約）

平成26年度においては、会員の要望をふまえて次のような事業を行う。

1. 技術の普及・向上に資するための事業

- (1) 電子成果の作り方講習会の開催
- (2) 現場応用新技術講習会の開催
- (3) GNSSによる基準点測量講習会の開催（2ヶ所）
- (4) ネットワーク型RTK法講習会の開催

2. 研修会、講演会等の事業

- (1) 管理職クラスを対象とした研修会の開催
- (2) 測量経営者を対象とした研修会の開催

3. 測量のイメージアップのための事業

- (1) 「測量の日」関連の諸行事
- (2) いばらき児童生徒地図作品展の開催（水戸市）

4. 会員の拡大および会員相互の親和を図るための事業

- (1) e-支部報の発行（今年度は3回発行）
- (2) メールマガジンの発行(随時)
- (3) ウェブサイト「測量情報館」・月刊「測量」への掲載
- (4) 地理空間情報技術セミナーの開催(会員は無料)

業務報告会 報告

関東支部報 No.2
夏季号

平成25年度収支報告

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日

○ 収入の部

(単位：円)

科 目	25年度予算額	25年度決算額	差引増減	摘 要
1 事業収入	(2,400,000)	(2,619,000)	(△ 219,000)	
講習会収入	2,400,000	2,619,000	△ 219,000	講習会受講料
2 雑収入	(0)	(137)	(△ 137)	
受取利息	0	137	△ 137	普通預金利息
雑収入	0	0	0	
3 特別行事収入	(0)	(0)	(0)	
4 支部運営費収入	(1,810,000)	(1,034,894)	(775,106)	本部よりの助成金
5 前期繰越収支差額	(0)	(0)	(0)	
合 計	4,210,000	3,654,031	555,969	

○ 支出の部

科 目	25年度予算額	25年度決算額	差引増減	摘 要
1 事業費	(2,700,000)	(2,474,146)	(225,854)	
臨時雇賃金	1,250,000	1,249,602	398	パート賃金
講習会費	1,090,000	975,587	114,413	講習会経費
運賃荷造費	50,000	44,205	5,795	資料等送付代
消耗品費	180,000	139,552	40,448	事務用品代等
印刷製本費	50,000	46,200	3,800	資料印刷代
普及宣伝費	80,000	19,000	61,000	
2 管理費	(1,510,000)	(1,179,885)	(330,115)	
役員報酬	0	10,314	△ 10,314	
福利厚生費	10,000	10,000	0	
支払報酬	40,000	36,752	3,248	講演会費用
通勤交通費	75,000	75,960	△ 960	パート定期代
旅費交通費	750,000	669,844	80,156	会議旅費・車代等
通信費	120,000	40,510	79,490	切手・葉書代等
交際費	300,000	143,000	157,000	役員退職記念品代
会議費	30,000	17,080	12,920	役員会・各部会費用等
借料損料	0	0	0	
調査研究費	45,000	43,966	1,034	新聞・書籍代等
支払手数料	10,000	5,459	4,541	振込手数料
協賛金	130,000	127,000	3,000	「測量の日」分担金等
3 特別行事費	(0)	(0)	(0)	
4 次期繰越収支差額	(0)	(0)	(0)	
合 計	4,210,000	3,654,031	555,969	

(注) 1 支部専従職員1名の人件費(給料手当、法定福利費、福利厚生費)等については本部経費で負担。

2 支部運営費の一部(水道光熱費、借室料)についても同様。

業務報告会 報告

関東支部報 No.2
夏季号

平成26年度収支予算

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

○ 収入の部

(単位：円)

科 目	26年度予算額	25年度予算額	差引増減	摘 要
1 事業収入	(2,625,000)	(2,400,000)	(225,000)	
講習会収入	2,625,000	2,400,000	225,000	講習会受講料
2 雑収入	(0)	(0)	(0)	
受取利息	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
3 特別行事収入	(0)	(0)	(0)	
4 支部運営費収入	(1,165,000)	(1,810,000)	(△ 645,000)	本部よりの助成金
5 前期繰越収支差額	(0)	(0)	(0)	
合 計	3,790,000	4,210,000	△ 420,000	

○ 支出の部

科 目	26年度予算額	25年度予算額	差引増減	摘 要
1 事業費	(2,603,000)	(2,700,000)	(△ 97,000)	
臨時雇賃金	1,250,000	1,250,000	0	パート賃金
講習会費	1,075,000	1,090,000	△ 15,000	講習会経費
運賃荷造費	50,000	50,000	0	資料等送付代
消耗品費	150,000	180,000	△ 30,000	事務用品代等
印刷製本費	48,000	50,000	△ 2,000	資料印刷代等
普及宣伝費	30,000	80,000	△ 50,000	
2 管理費	(1,187,000)	(1,510,000)	(△ 323,000)	
役員報酬	0	0	0	
福利厚生費	10,000	10,000	0	定期健診
支払報酬	0	40,000	△ 40,000	講演会謝礼等
通勤交通費	78,000	75,000	3,000	パート定期代
旅費交通費	750,000	750,000	0	会議旅費・車代等
通信費	60,000	120,000	△ 60,000	切手・葉書代等
交際費	40,000	300,000	△ 260,000	
会議費	70,000	30,000	40,000	役員会・各部会費用等
借料損料	0	0	0	
調査研究費	45,000	45,000	0	新聞・書籍代等
支払手数料	7,000	10,000	△ 3,000	振込手数料
協賛金	127,000	130,000	△ 3,000	「測量の日」分担金等
3 特別行事費	(0)	(0)	(0)	
4 次期繰越収支差額	(0)	(0)	(0)	
合 計	3,790,000	4,210,000	△ 420,000	

(注) 1 支部専従職員1名の人件費（給料手当、法定福利費、福利厚生費）については本部経費で負担。
2 支部運営費の一部（水道光熱費、借室料）についても同様。



編集後記

御好評いただいております冊子版「関東支部報」からWeb版の「関東e-支部報」になり、今回で第2回の発行となりました。

e-支部報では、会員間での情報交流を目的に、大学の先生方からの新技術や、会員の方の得意技術を紹介させていただいております。

本号でも、興味深い情報が多く、会員間での連携に繋がれば幸いです。

これまで以上に支部報の内容の充実を図り、各種の情報提供と会員相互の親和を図ってまいりますので、今後とも情報提供のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年の夏も猛暑とのことですが、節電等によりさらに暑くなることが予想されておりますので、熱中症にはくれぐれもご注意下さい。

会員の皆様のご健勝を祈念し「編集後記」とさせていただきます。

表紙の写真

沖縄県の宮古島南東部から長さ約2km延びる岬、“東平安名崎（ひがしへんなさき）”である。太平洋と東シナ海に面し高さ約20m、最大幅約160m、隆起サンゴ岩礁の石灰岩で構成されている。

干潮時の海浜、リーフの先に点在する岩塊は波浪の浸食で崩れたものでなく、1771年にこの地方を襲った「明和津波」やそれ以前の大津波により打ち上げられた岩塊「津波石」である。

津波石の年代測定については、下記URLの論文を参照されたい。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography/121/6/121_121.1043/_pdf

写真提供：元日本大学教授 小元久仁夫様

原稿募集

新技術、会社・得意技術紹介の原稿を募集しております。

（A4 1 ページ、文字は10行程度）

原稿作成をお願いできる大学・会社の方は編集部会までご連絡下さい。なお掲載につきましては、総務・広報部会にて審査させていただきますのでご了承ください。

総務・広報部会 連絡先

〒112-0002

東京都文京区小石川1-3-4

TEL:03-5684-3499

FAX:03-5684-3519

E-mail : kantou@jsurvey.jp

残暑お見舞い申し上げます

【編集・発行】 関東支部 総務・広報部会

